

第5回スクラムスクール運営協議会 記録

平成 30 年 3 月 8 日

御前崎市文化会館大研修室

1 吉村教育長職務執行者あいさつ

- 池新田高校と横須賀高校を一つにしようとする県の計画が決定し、現在、県民から意見を聞く取り組みをしている。その中で「池新田高校を残すべきだ」というパブリックコメントにスクラムに関するものがあった。
 - 御前崎市は、『スクラムスクールプラン』で、幼・保・小・中・高校まで含めた教育に地元として積極的に取り組んでいる。御前崎市に伝統ある池新田高校を残すべきだ、という意見
 - 池新田高校は『スクラムプラン』に取り組み、園・学校・地域を結ぶ活動をしている。御前崎市の『市立高校』のような存在であり、地域に存在感のある学校である。

本日の会には、池新田高校から副校長先生が参加してくれている。

地域の中にも、地道に取り組んでいることがじわじわ浸透していると感じる。

私たちの取り組みは決して間違っていない。みなさんの力の賜であるであると思う。

2 会長あいさつ

(御中 石原会長)

- 次期会長のみなさんは、初めは「何だろうこの会」と思いながら参加していることと思う。参加しているうちに、御前崎市のスクラム運営協議会をどう進めていくか、子ども達の健全育成をどう進めていくか、たくさん話合ってきた。思いをもって進めている人が、御前崎にたくさんいるんだな、それが子ども達の環境を良くしている源になるのだ、ということを感じた。
- 様々な意見をうけ、論議してきたが、物事はなかなか進めないと感じている。ここは園・小・中・高まで、縦の繋がりができている唯一の集まりである。意見をこの場でも出し合い、ぶつけあうことが、前進することになると考える。ぜひこの会を継続し、みんなにより影響を与えられる会になれば、と思う。
- 「渚の交番」での海洋教育に取り組んでいる。リンクしながら、今後も続けて、子どもを育てる環境を考えていきたい。次期会長さんには、ぜひがんばってほしい。
- かめバックホーム 5月1日 下岬海岸 マリンパークの方ビーチクリーン。小学校から中学生まで全部集まって、一斉に行っている。だれでも参加できるので、園から高校までの保護者も参加し、一体感あるイベントになれば。SS運営委員会のひとつのみんなが集まるイベントになれば。ぜひ参加を。

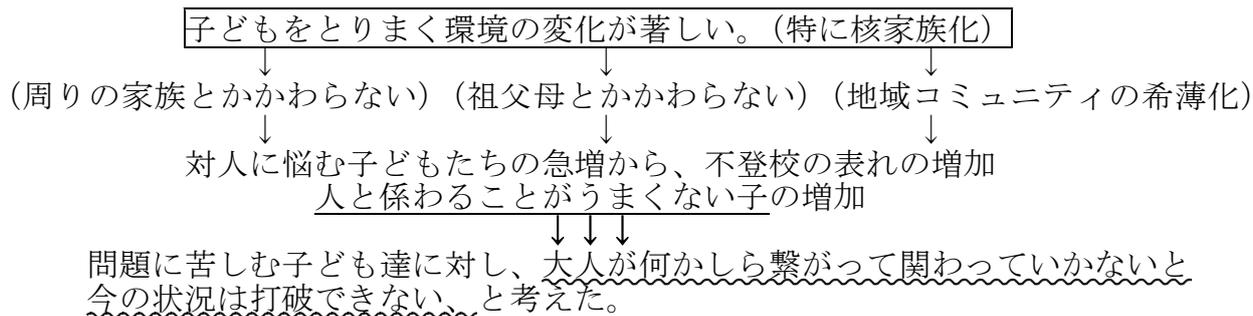
(浜中 原田会長)

- あっという間の一年だった。自分たちもどんな会か？と思いながらのスタートだった。話合うちで様々な意見が出て充実した会議であった。
- 浜岡中、毎月10日にあいさつ運動として、池新田高校も参加してもらい、島信交差点であいさつ運動をしている。次年度も行う予定でいる。来年はぜひ、地域の方々にも参加してもらって盛大に運動ができる取り組みをしたい。よろしくお願いします。

3 スクラムスクール運営協議会の役割 (学校教育課長)

(1)なぜ、コミュニティ・スクール運営協議会を立ち上げたのか。

- スクラムスクール運営協議会が始まったのは3年前。なかなか進まないながらも、着実に進んでいると思っている。本日は、今までの取り組みと次年度への方向性について説明をする。御前崎の子ども、地頭方の子どもたちがよりよく郷土を創っていける子になるように、と考えている。
- 全国的にはコミュニティ・スクールと呼んでいる。「子ども達を地域全体で育む」ということを目的にしたもの →その御前崎市版が、『スクラムスクール運営協議会』静岡県では、まだ10%の学校しかコミュニティ・スクール化していない。(磐田市と御前崎市)



コミュニティ・スクールありき、ではなく、
「御前崎市の実態が問題を抱えている現実がある」
「解決するために ①社会全体で子どもを育て ②園～高まで途切れない学びをつくる」
 ことが必要であると考えた。

・課題として不登校出現率がある。(年間30日以上的人数を全体的人数でわったもの)

静岡県 小 0.63%
 中 3.49%

御前崎市	H27	H28	H29
小	0.88%	0.3%	0.7% (11名)
中	4.39%	4.1%	5.2% (49名)

H28年度は、御前崎市だけが減少した。学校のがんばりの成果だと考える。
 本年度もがんばりは続けているが、本年度出現率は増加してしまった。

・問題行動 よくなったり悪くなったりを繰り返している。

H29 小中 発生件数 80件 (143人)

ネットパトロールである表れ

飲酒喫煙・不純異性交遊・繰り返し難題を起こす子・対教師暴力

・前回、朝食調査はここに挙げた数値 (画面参照)

☆このような状況を変えて行くには、園・学校だけではどうにもならない。

家庭に呼びかけて改善を図る、

家庭の協力を得ていい方向に向かう、

地域の方が同じ思いをもって子ども達に関わってもらう、等の取り組みが不可欠。

コミュニティ・スクールありき、ではなく、

「コミュニティ・スクールにならなければ、解決できない問題がある」と判断した。

・つながる仕組み

学校…SSP (スクラムスクールプラン)

地域家庭…SS運営協議会

(2) スクラムスクールプランで取り組んできたもの

・グッドマナー運動

中学生が一緒になって「あいさつで地域を明るくしたい、貢献したい」と開始。

中学生→小学生 への呼びかけで広がる。

初年度はPTAが協力していこう、と学校の校門や通学路であいさつ推進。

保護者から、地域の方を巻き込んだ取り組みになっている。

・スクラムカレンダー 全戸配布している。

白羽小が始めたものを、昨年度4月からみんなが取り入れてきた。(H28)

H29年9月 全小学校区で完成した。

様々な地域から好評な声が聞かれる。

(成果)

- ・グッドマナー運動
地域の方がPTA、子どもと一緒に展開し始めている
サポート隊の協力、社会教育課のグッドマナーTシャツ
PTAのあいさつ運動とグッドマナーを連動させている学校もある。
子どもの交流も生まれている、浜岡中と池新田高校の交流。
御前崎中と小学校の連動。(学校説明会)
あいさつ運動の方向性はどうか、とぎれさせないように話し合いをしている。
- ・スクラムカレンダーの進化
地頭方小のビタミンカレンダー
地域の特徴を生かしたカレンダー作成
ボランティアを中心に作成。
- ・御前崎中・御前崎小・白羽小合同の海岸清掃
この会の中で「合同でできないか」と提案され、実現した。
次年度5月は、地域の方を巻き込んだ取り組みに、と広がりを見せている。

(課題)

- ・なかなか具現化されない。
目的・目標がはっきりしない。→地域の子どもと一緒に育てる思いでいる。
- ・発信力が弱い。
- ・行政内での一体化がない。
- ・各PTAでの活動と、運営協議会で決まった活動を並行していくことが難しい。
- ・この会の内容を各校・園の役員に説明することが難しい。
- ・会長の負担が大きい。
- ・会長は1年の任期。複数年にわたって会長を努めてくれる人が出てきてほしい。

(3) 30年度の運営協議会が目指すもの

- ・あいさつ運動
- ・スクラムカレンダーの充実
- ・『早寝・早起き・朝ごはん』の呼びかけと検証
- ・行政がもっとつながり、統一感をもつこと
他課でも「あいさつ運動」『早寝・早起き・朝ごはん』の呼びかけをし、市民への周知を計りたい。行政を含め、関係者の出席を依頼する。(社会教育委員など)
- ・市のHPリニューアル 運営協議会についてアップしていく。
各校HPに、スクラムカレンダーを添付し、様々な人が見て活用できるようにする。
- ・園・学校の様子を参観する日、時間をつくる。
運営協議会を、浜岡中・御前崎中でそれぞれ行い、生徒の様子を見てもらうと共に、園から高校まで協議している様子を委員のみなさんに見ていただきたい。
運営協議会でできることは？の協議をしていきたい。

◎この会の目的は

『郷土を愛し 未来を創る子』を育てるために、
学校・家庭・地域・行政がどうつながっていくか？を協議していく会になる。
「つながりつくろう スクラムで」のスローガンのもと協議しながら、少しずつ着実に進んでいきたい。

H30は国と県の補助が終了となる。

御前崎市独自で予算立てをしてこの会を進めていく。より進歩、進化したものに。
みなさんの手で、進化したものに育てて欲しいと思うので御協力を。

質問 (なし)

4 各園・小・中・高の取り組みについて（各 PTA 会長・池高副校長）

（第一小）

- ・あいさつ運動
PTA 会長が参加する会、PTA 総会、役員会などで伝えている。
校門や通学路で役員中心に行っている。
- ・スクラムカレンダー・『早寝・早起き・朝ご飯』
PTA 新聞（学期に 1 枚発行している）の原稿に思っていること、知ってもらいたいことを文章にして表している。
入学式の校長の話など、様々な場で伝えている。

（白羽小）

- ・あいさつ運動
毎月 10 日スクラムあいさつ運動
子ども達のあいさつ委員会が行っている。（H29）
- ・スクラムカレンダー
だんだん浸透しつつある。賛同者も。
制作ボランティアの数が増えている。
- ・『早寝・早起き・朝ご飯』
ボランティアさんが御前崎の食材を取り入れた、朝食の簡単な 3 種類のレシピを
カレンダーに入れた。
カレンダーと朝ご飯を関連づけながらやっていきたい。
- ・12月9日（土）浜の子発表会 父親やいつも来られない人に声をかけた。
たくさんの方が参観に来てくれた。
カレンダーを見て来てくれた人も多くいた。カレンダーの効果が見える。
次年度は運動会・浜の子発表会の 2 回、土曜日に実施していきたい。

（高松幼）

- ・あいさつ運動 グッドマナーの日
地域の老人会（シニアクラブ）に出てもらっている。20 人くらいが参加。
子ども達と話ができ、おじいちゃんたちもよろこんでいる。
各地域とのつながりにもなる。みなさんにもお勧め。（次年度も）
各保護者は、来園する時にあいさつをする。負担を減らす方向に。
- ・スクラムカレンダー
今のままだと、掲示物になってしまう。
『早寝・早起き・朝ご飯』取り組みをすすめるために、色を塗る、○をつける、
シールを貼るなど、使い方を工夫できるとよい。
- ・『早寝・早起き・朝ご飯』
長期休みは生活リズムが狂う。生活表を配って丸をつけるなど、園の方でも把握
する予定。
『早寝・早起き・朝ご飯』はなぜ必要なのか、おたよりを出したり、講演会・
参観会などで発信していきたいと考える。

（課長）

- ・どうしたら現在の取り組みがより良くなるか、もっとうしたらどうか等、PTA
総会や役員会で話をし、広げて欲しい。
- ・運営協議会で取り組んでいること、『早寝・早起き・朝ご飯』がなぜ大切か、など学
校教育課職員が説明に行くこともできる。
- ・SS 運営協議会の取り組み・学力調査について作成したパンフレットもある。必要
であれば用意できるので、御連絡ください。また、学校と園には、保護者配布す
る。保護者に伝わるよう、御協力いただきたい。

5 平成30年度 各園・校の重点目標の承認

(五島)

- ・基本的なことだが、SS運営協議会に関する規則の第8条に、園の運営、学校の運営に関して承認するということが、今、行われていると思うのだが、中身があるものを審議しないと、重点目標だけでは内容がわからない。
関係する園・小・中学校のことは、地域の者でもわかるので、全体の間では無く、各小学校単位ぐらいの分科会で話し合う方がよいのではないかと思う。
- ・承認したものを、評価する機関はあるのか？(評価委員会)
- ・学校運営の方針を承認する場合は、他にもあるのか？ここだけなのか？

(課長)

- ・承認に値するかどうかだが、各校の中で細かいものを作成し、見て頂くことが最善だが、時間の都合で省かせていただいている。
また、運営協議会は本来、園・学校単位で行うことが望ましいとされている。しかし、役員さんの重複の可能性も考え、ここでは御前崎中学校区、浜岡中学校区と大きくくり、全体で行うという形をとっている。どの人にも見やすく、わかりやすくするために、全体という形をとった。
- ・各学校では、学校評議委員会が設置され、子ども・保護者・教員の学校評価をデータ化したものを見合っ、本年度を評価している。
本来、それを運営協議会等に変えてもよいのかとも思っているし、発展したものが運営協議会かとも思う。
各学校・園内で評価し、評議委員会で次年度の承認を得ている。ここでは形式的な形になってしまっているが、そのような形をとっている。

(五島)

- ・評議委員会の中で年度初めに基本方針を承認しているのか？
- ・年度の終わりにも評価をしているのか？

(課長)

- ・学校評議委員会は、年2・3回行われている。最初に校長が方向を説明し、中間で見ただき、最後は2月か3月。その年の反省と次年度の取り組みについて、話題になり、承認を得るようにしている。

(五島)

- ・それでは、評議委員会の中で承認されたものを、スクラム運営委員会を出してもらい市内のみなさんで共有する方がよいのではないか。評議委員会という場で承認という機会があるのなら、かなり詳しい数字も出ると考えられるし、そこで審議されたものをみなさんで共有すればよいのではないか。
この場で承認となると、重い責任になる。承認したところが評価する必要があるので、形を変える方がはっきりするのではないか。
運営協議会で各園・学校の方針を共有する必要はもちろんある。

(課長)

- ・市HPに園・学校の評価をのせ、公表できる範囲の中でしていきたい。
園長、学校長と今後相談する。
- ・各学校・園の中で、進む方向が明確に示されていて、次年度取り組んでいく、ということをお理解いただきたいです。

6 講評・感想

(中村先生)

- ・本年度取り組み、次年度へのことを受け、今後もSS運営協議会を充実したものに。
- ・次年度、財源が市独自のものになる。国・県の補助がなくなり、弱体化するのでは？と心配されるかもしれないが、3年間でSSの基盤ができた、ことを表し、それを基に、御前崎市独自の方向性を自由に追究していい、というメッセージなのではないかと受け止める。御前崎市がやりたい状況がやりやすくなった。
スタートアップが終了し、この基盤をさらに拡大・充実させる段階に入った。
- ・この会はアイデアを出し合い、話し合い、形にしていく会。
「あいさつ運動」・「カレンダー」・『早寝・早起き・朝ご飯』

- ・不登校出現率や、問題行動の数値が高い、という問題も心配になるが、必ずしも悪いことではない。

↓
問題が多く見えると言うことは、先生・地域の大人たちがよく見ている、発見している、ということでもある。
子ども達をしっかりと見ていこう、ということが、しっかり行われている表れでもある。

- ・数が増えたから落ち込む必要はなく、
「見つけた問題をどうやったら解決できるか」みんなで考えることが、H30年度の軸の一つになる。
- ・あいさつ運動等、子ども達のことを考え、子どものためにできる手立てを考えた、ということになる。
一気に予算と力を掛けて変革を望む方法もあるが、継続は難しい。
制限のある中で、無理のない範囲でできることを着実にやっていくこと、長い時間をかけて基盤をつくっていくことが、この会の主旨に沿っている。
- ・この会を参観させて頂いていた学生が、次年度、御前崎市のコミュニティ・スクールで学んだことをもとに、関東のある町で実践することになった。
- ・牛歩に見えるかもしれないが、やってきたことは他市に影響を及ぼしたり、これから御前崎市を変え、日本のどこかを変えていく可能性があると感じた。労力がかかる活動かもしれないが、有意義なものになっていると考える。
次年度、より充実したものになるように願っている。

(島田先生)

- ・継承と発展という視点で3年間参加してきた。
H29は会長職がおかれた。石原会長、原田会長はかなり悩んで進めたことだろう。
グッドマナー運動の周知、スクラムカレンダーの各校への広がりとリニューアルなど素晴らしい取り組みが、グループ協議の中から実現に繋がっている。
会長のリーダーシップと、みなさんの熱い思いが感じられた。
任期終了により委員は離れても、それぞれの立場で生かして還元して欲しい。
- ・次年度の役員さん方は、不安を感じたと思う。が、楽しむことが大事。
子ども達の成果・笑顔が感じられるものが多いと思われる。ただし、何のための会議なのかを常に考えてきたので、今回改めてねらいをおさえた。
- ・社会も人も変わる。初めのことを大切にしながらも、オリジナリティを出して何ができるか話し合い、考えていってほしい。
- ・自治体の幸福度調査が多くされるようになった。
「人はいかにして幸せになるか」(米 学者)
↓
大きなウエイトを占めるのは「偶然の出会い」である。
キャリア教育の視点で 小さいうちから偶然の出会いをいかに多く提供できるか、これからの大人に問われてくる。
運営協議会(園・小・中・高 PTA 先生 地域)様々の立場の人たちが関わる。
偶然の出会いがあり、つながり、検証され、活動が生まれている。
偶然を楽しみ、失敗してもよいので、大切なことは何か、話し合いながら、悩みながら進めていることこの会のよさでありこれからの世の中で求められる姿である。
- ・低くとも飛び続けることが大切であると考え。飛んでいるからこそ辿り着ける。
次年度の役員さんも低くとも飛び続けること、ゆくゆくは大きな理想に辿り着ける。

7 お礼及び連絡

- ・感謝とH30年度へ。